

# 生と死を、今考えるⅡ

— やすらぎのがん医療 —

参加費  
無料

日時

平成23年

11月5日 土

13:00~17:00

場所

大阪府立急性期・  
総合医療センター  
3階講堂

交通アクセス

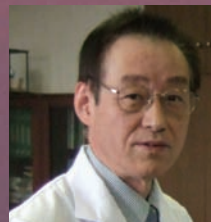
- 市バス……あべの橋(天王寺)よりバス約15分  
「府立総合医療センター」下車すぐ
- 地下鉄……御堂筋線「長居駅」より徒歩約15分
- 南海電鉄……高野線「帝塚山駅」より徒歩約10分
- JR……阪和線「長居駅」より徒歩約12分



相愛大学  
積 徹宗



相愛大学  
秋田 光彦



府立急性期・総合医療センター  
田中 康博



森ノ宮医療大学  
坂出 祥伸



毎日放送  
大谷 邦郎



府立急性期・総合医療センター  
府立急性期・総合医療センター  
吉田 洋



森ノ宮医療大学  
嶋路 紀子



森ノ宮医療大学  
山下 仁



ひまわりの会  
山田 義美

□記念コンサート

相愛大学 弦楽四重奏「dolce(ドルチェ)」

□基調講演

日本文化から見た生命のやすらぎ

相愛大学人文学部教授 積 徹宗

□関連講演

東洋医学の身体観、人間観

森ノ宮医療大学保健医療学部教授 坂出 祥伸

終末期医療の課題と展望

府立急性期・総合医療センター副院長 田中 康博

□パネルディスカッション

テーマ：やすらぎのがん医療の

実現に向けて—課題と提言

コーディネーター

●毎日放送 大谷 邦郎

パネリスト

●府立急性期・総合医療センター小児外科部長  
(緩和ケアチーム長) 吉田 洋

●府立急性期・総合医療センター

緩和ケアチーム看護師長 嶋路 紀子

●森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科教授  
山下 仁

●相愛大学客員教授・大蓮寺住職・應典院代表  
秋田 光彦

●ひまわりの会

(府立急性期・総合医療センターがん患者会)

会長 山田 義美

アドバイザー

●基調講演者、関連講演者2名

\*お申し込みは大阪府立急性期・総合医療センターへ

お電話 06-6692-2222、または ホームページのセミナー申込み画面にて  
「氏名」「住所」「電話番号」をお知らせください。

<http://www.gh.opho.jp/>

受付期間は10月3日(月)~10月31日(月)です。なお、先着200名になり次第締め切らせていただきます。

※お寄せ頂いた個人情報は、個人情報保護法に則り厳重に保管し目的以外の使用はいたしません。



モバイルサイト

# 相愛大学×大阪府立急性期・総合医療センター×森ノ宮医療大学 連携シンポジウム



## 釈 徹宗

(しゃく てっしゅう)  
相愛大学

’61年、大阪府生まれ。大阪府立大学大学院人間文化研究科博士課程修了。学術博士。相愛大学人文学部教授。浄土真宗本願寺派如来寺住職。NPO法人リライフ代表。著書は『親鸞の思想構造-比較宗教の立場から-』(法蔵館)、『ゼロからの宗教の授業』(東京書籍)『おてらくご』(本願寺出版社)など多数。論文「不干斎ハビアン論」で第五回涙骨賞(中外日報社)を受賞。



## 秋田 光彦

(あきた みつひこ)  
相愛大学

’55年大阪市生まれ。浄土宗大蓮寺住職。パドマ幼稚園園長。同寺塔頭の劇場型寺院・應典院をNPOや芸術文化の拠点として開放、年間3万人の若者が集まる。寺はそもそも地域の寄り合い、交流の場であり、さまざまな「場」づくりを通してつながりを再生し、コミュニティを創造する。また少産多死時代の葬送の問題にも取り組み、大蓮寺・エンディングを考える市民の会代表として、寺とNPO協働によるコミュニティケアにも取り組む。共著に「地域をいかにつなぐのデザイン」。’11年4月より相愛大学客員教授就任。



## 大谷 邦郎

(おおたに くにお)

’84年毎日放送入社。報道局にて主に経済畑で記者として活動。’03年からラジオ局報道部デスク・報道番組のディレクター。’07年にラジオ局報道部長。現在は編成局宣伝部長。’05年にはお仕事を楽しむ人の図鑑「関西唯の人」(星湖舎)出版。’07年報道業界で最高権威の一つギャラクシー賞のラジオ部門でプロデュースした作品が最優秀賞を受賞。’08年には自身の作品で民間放送連盟賞の教養部門で優秀賞受賞。



## 吉田 洋

(よしだ ひろし)  
大阪府立急性期・総合医療センター

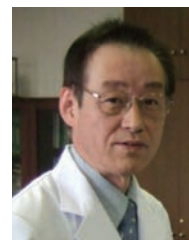
’88年大阪大学医学部卒。大手前病院外科医師、国立呉病院小児外科医師、大阪大学医学部附属病院小児外科医員を経て、大阪大学医学部助手(小児外科)、愛染橋病院小児外科医長、同副部長、近畿大学医学部外科(小児外科部門)医学部講師、大阪府立急性期・総合医療センター外科副部長を経て、現在小児外科部長及び緩和ケアチーム長。



## 山田 義美

(やまだ よしみ)  
大阪府立急性期・総合医療センター  
がん患者会「ひまわりの会」

’06年夏に乳がんと診断される。手術後、放射線治療25回、抗がん剤治療6回(3週間に1回)を経て現在ホルモン治療中。’09年4月に大阪府立急性期・総合医療センターがん患者会「ひまわりの会」を発足し、会長を務めている。この会の目的は、がん患者とその家族を支援し患者・家族の親睦を深め、治療に関わる情報交換を行うことである。毎月第2・第4金曜日に相談会を開催している。



## 田中 康博

(たなか やすひろ)  
大阪府立急性期・総合医療センター

’76年大阪大学医学部卒。大阪大学医学部第1外科、大阪労災病院外科医員を経て大阪大学医学部第1外科講師。’91年5月～大阪府立急性期・総合医療センター勤務。消化器一般外科医長、消化器一般外科部長・主任部長などを経て現在副院長。この期間中’85年7月～’87年6月まで米国ニューヨーク州立大学Downstate Medical Center外科に留学。消化管・膵ホルモンの研究に従事。’98年7月には、米国ウィスコンシン大学移植外科において肝・膵・腎移植の臨床に従事。専門領域は消化器外科(特に胆膵の外科)、内分泌外科。



## 嶋路 紀子

(しまじ のりこ)  
大阪府立急性期・総合医療センター

大阪府立急性期総合医療センター外科病棟看護師長を経て現在精神科病棟看護師長。PSW有資格。’02年、急性期・総合医療センター初版「がん緩和ケアマニュアル」の精神的ケアを作成。その後も継続してがん緩和ケアチームのメンバーとして、こころのケアに関わる。患者は、がんと意識した時から不安や心理的・身体的苦痛を抱え、がんと闘う。家族も患者と共にがんに向かい、特にターミナル期は、せん妄や意識障害など、多大な苦悩を生じる。看護管理者として、患者・家族が少しでも心穏やかにその人らしく日々が過ごせるように、医療スタッフと共に支援を行っている。



## 山下 仁

(やました ひとし)  
森ノ宮医療大学

’87年明治鍼灸大学鍼灸学部鍼灸学科学卒業。鍼灸師。’87～愛媛県立中央病院東洋医学研究所技師。’92年～筑波技術短期大学助手。’05年～筑波技術大学助手。’99年～’02年に英国エクセター大学補完医学研究室客員研究員。’02年博士(保健学)(東京大学)。’07年～現在、森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科学科長・教授。’11年～現在森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科研究科長・教授。全日本鍼灸学会常務理事、Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine編集委員、日本統合医療学会代議員、International Society of Complementary Medicine Research発起人。



## 坂出 祥伸

(さかで よしのぶ)  
森ノ宮医療大学

’34年鳥取県生まれ。京科大学大学院文学研究科中国哲学史専攻修士課程修了。文学博士。関西大学文学部教授を経て現在、森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科教授。日本・中国・韓国など東アジアに共通する「氣」の観念を中心に道教、儒教などの身体観を研究。日本道教学会元会長、人体科学会顧問、日本養生学会顧問など。主な著書に『「氣」と道教・方術の世界』(角川選書)『道教とはなにか』(中公叢書)『道教の大事典』(新人物往來社)『日本と道教文化』(角川選書)など多数。訳書にM.カルタンマルク『老子と道教』(人文書院)など。

## 記念コンサート演奏曲目

- シューベルト：アヴェマリア
- ディズニー「ピノキオ」より：星に願いを
- モーツァルト：トルコ行進曲
- ふるさと ●川の流れのように(見岳章)



メンバー 相愛大学卒業生

## Dolce

(ドルチェ)

- 1stヴァイオリン 田中 佑子(たなか ゆうこ)
- 2ndヴァイオリン 浦田 彩(うらた あや)
- ヴィオラ 生川 夏乃子(なるかわかのこ)
- チェロ 中島 紗理(なかじま さり)

メンバーは全員相愛大学音楽学部卒業生。それぞれフリー奏者として関西を拠点にソロ・室内楽・オーケストラなどで活動しながら、カルテットDolceとしても活動。身近にクラシック音楽を感じて頂きたいという思いから、コンサートだけでなく、パーティーやレストラン…様々な場面で、暖かい音楽をお届けしています。